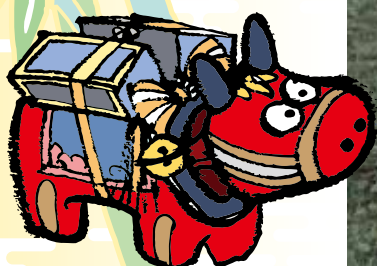


ちょっと気になる八王子マガジン

は ち と ひ



2021年 新風号

No.47

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

特集

わがまち八王子
探訪シリーズ

「加住」



滝山城本丸址と小島善太郎画「滝山展望（滝山城址より多摩川を望む）」
（八王子市夢美術館蔵）

加住地域を深〜く知る！ その1

“滝山城跡探訪コース”

村内美術館〜圓通寺

加住地域を深〜く知る！ その2

“滝山街道散策コース”

道の駅八王子滝山〜戸吹スポーツ公園

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑬

コラム 八王子の原風景⑬

私の本はこうして生まれた 其の四十七

パフォーマンス集団「ザ・レインボーズ」

村組 ― コミュニティの原点 佐藤 広

八王子の地形 再見 馬場喜信

『大久保長安 家康を創った男！』 山岩 淳 著

深〜く

加住地域を知る! その1

滝山城跡探訪コース



今回の八王子探訪シリーズは加住地域。国道16号から滝山公園を経て高月町へと向かうルートと、道の駅八王子滝山から滝山街道を横断して戸吹スポーツ公園へと向かう2つのルートを設定しました。豊かな自然と歴史文化の共存する加住地域をご紹介します。

はちとぴ
観光★
—特撰—



◎「加住村」の縁起

八王子市の北西部に位置する加住地域は、多摩川、秋川を隔てて、昭島市、福生市、あきる野市と接する加住丘陵に立地しています。1889（明治22）年に、留所村、大沢村、本丹木村、中丹木村、八日市村、横山村、梅坪村、滝山村、左入村、谷野村、宮下村、戸吹村、高月村の13か村が合併して加住村となり、1955（昭和30）年に八王子市に合併されました。

加住地域は丘陵地の谷や山麓地に集落と耕地が拓かれた農村地帯でしたが、山地が多く、耕地が少なかったため、古くから副業が盛んでした。明治時代には農作物を作る傍らで養蚕を行う家が多く、機織りも盛んでした。

昭和30年代からは宅地開発が進み、人口が増え始めます。このころから大学やゴルフ場が開設され、最近では都内で初めてとなる道の駅がオープンしたり、新滝山街道が全線開通するなどして、大きく変貌を遂げています。一方、多摩川や秋川を水源とした清流に恵まれて、高月町では、現在も稲作が盛んで、都内有数の水田が広がる地域でもあります。

歴史的な遺構としては、中世に建てられた高月城跡と滝山城跡が筆頭といえるでしょう。中世後期、武蔵地域の政治的な拠点で、特に滝山城は全国でも有数の中世城郭跡といわれています。現在、この一帯は都立滝山自然公園となり、国の史跡として文化財指定もされています。また、滝山公園は桜が有名で、毎年4月には「滝山城跡桜まつり」を開催するなどして、多くの観光客も呼び込んでいます。

①村内美術館



1982（昭和57）年開館。村内ファニチャーアクセスの村内道昌が集めた西洋絵画や世界の名作家家具を、7部屋の展示室で鑑賞することができる。開館時間10時30分〜17時30分、水曜・年末年始休館、入館料600円（一般）。

②現代家具工芸学校



村内ファニチャーアクセスの敷地内に校舎がある。本格的にプロを目指す人から趣味として家具作りをした人まで家具製作が学べる学校。1日体験コースや木工体験イベントなどの各種ワークショップも行っている。（はちとぴ37号参照）

③宗徳寺



もともと八木町にあったが、戦災で焼失。戦後に本堂などが再建されたものの、1973（昭和48）年に現在地に移転し、改めて本堂などを再建した。境内の墓地入口には八王子千人同心組頭の植田孟縉の墓がある（都指定文化財）。

④東京富士美術館



1983（昭和58）年開館、2008（平成20）年に新館オープン。日本・東洋・西洋の各時代の絵画、版画、写真、彫刻など、様々なジャンルの作品約3万点を所蔵し、定期的に特別展を開催している。開館時間10時〜17時、月曜・年末年始休館。

村内美術館 ～圓通寺

- ① 村内美術館
- ② 現代家具工芸学校
- ③ 宗徳寺
- ④ 東京富士美術館
- ⑤ 創価大学
- ⑥ 龍源寺
- ⑦ 善太郎坂
- ⑧ 加住市民センター
- ⑨ 満蒙開拓団慰霊碑
- ⑩ 霞神社
- ⑪ 霞神社由緒の碑
- ⑫ 高月のクワ
- ⑬ 高月浄水場
- ⑭ 高月の水田
- ⑮ 高月城跡
- ⑯ 圓通寺

この場所を
ご案内します

あともう
少しだよ！

マイペースで
歩きましょう！

出発です！
楽しみだな！



⑧加住市民センター



2002（平成14）年開館。会議室、多目的室、和室のほか、体育室、地区図書室などを備える。地区図書室には郷土の本が多数揃えられている。加住地区の町自連、住民協、防災、防犯、滝山城跡文化協会の5団体が事務局を置いている。

⑨満蒙開拓団慰霊碑



乗泉寺八王子別院内にある。麻布（現・港区六本木）にあった乗泉寺の一般信徒が結成した満蒙開拓団は、敗戦直後にソ連兵によって虐殺された。自決者を含む約550名の犠牲者の慰霊のために、1978（昭和53）年に建立。

⑩霞神社



在郷軍人加住村軍会が、日露戦争の戦没者15名を祭神として創建し、1912（明治45）年に滝山城本丸址に社殿を建立した。戦後、満州事変、日中戦争、太平洋戦争での戦死者も合祀。町村出身の戦没者を祭神とした珍しい神社。

⑤創価大学



1971（昭和46）年に開学し、2021（令和3）年に創立50周年を迎える。現在は8学部10学科、5研究科、2専門職大学院を備え、学生数は7000名以上。平和問題研究所、比較文化研究所、東洋哲学研究所なども擁している。

⑥龍源寺



永祿年間（1558〜70）草創。市指定有形民俗文化財で、多摩地区で最も古いといわれる1448（文安5）年の月待供養の板碑がある。月待供養とは、特定の月齢の日に人々が集まって飲食を共にし、月の出を待ち拝む民間信仰。

⑦善太郎坂



丹木3丁目から谷野町に向かう坂。この坂下に洋画家、小島善太郎が住んでいたことに由来する。小島はこの地に40年ほど住んでいたが、道路拡幅に伴い、1971（昭和46）年に日野市百草に転居した。（はちとぴ19号参照）

ひと休み
コラム

都立滝山公園と滝山城

加住丘陵にある都立滝山公園は、1986（昭和61）年に開園しました。

▲滝山公園より多摩川を望む



滝山城跡の遺構を中心として、32万㎡もの広さがあります。自然豊かな公園で、園内に5000本もの桜を有する都内有数の桜の名所としても知られています。これらの木々は、1971（昭和46）年に加住地域の住民が、丘陵の地形が似ている奈良の吉野山に見立ててソメイヨシノやヤマザクラなどを植樹したものです。毎年4月には「滝山城跡桜まつり」が開催されているほか、5月の新緑の時期や10月の紅葉の時期には散策ツアーが開かれるなど、加住地域のイベントの中心的役割を担っています。

滝山公園の北側は、多摩川が削った70mほどの高さの崖になっています。この川沿いの絶壁に築かれたのが滝山城です。

滝山城は1521（大永元）年ごろに武蔵国守護代の大石氏が築城したといわれ、後に小田原から勢力を広げてきた北条氏の支城となりました。城を継承した北条氏照は城域を拡張し、その広さは当時の平山城としては日本最大級を誇ったといえます。また、河岸段丘の地形を巧みに活かした難攻不落の城ともいわれ、1569（永祿12）年に武田信玄の2万の大軍に攻め込まれた際にも、わずか2千の兵で守りぬくことができたといわれています。

⑪霞神社由緒の碑



1958（昭和33）年、滝山霞神社
碑銘建設協賛会・加住地区遺族会に
よって霞神社社殿の左側に建立され
た。霞神社の由来と、祭神である日
露戦争15名、満州事変1名、日中戦
争13名、太平洋戦争107名の戦死
者名が刻まれている。

⑫高月のクワ



山地に自生するヤマゲワの一種で、
市指定天然記念物。高さ6mで、株
は根元から二股に分かれている。推
定樹齢は400年超。1991（平
成3）年、道路拡幅に伴って移植さ
れた。傍らに桑都ライオンズクラブ
が建てた碑もある。

⑬高月浄水場



1966（昭和41）年、秋川の伏流
水を取り入れて1日約4万㎡の水を
急速ろ過方式で処理できる浄水場と
して造られた。処理された浄水は高
月給水所を経て、市北部の加住町、
石川町、川口町方面へと供給されて
いる。

⑭高月の水田



八王子の米どころといわれる高月町
は、古くから水質、水量ともに恵ま
れた地であり、今も都内最大級の水
田が広がっている。川沿い、街道沿
いを歩くと、四季折々の田園風景を
楽しむことができる。（はちとぴ31
号参照）

⑮高月城跡



大きく蛇行する秋川と多摩川の合流
点近くに位置し、流れに突き出るよ
うな加住丘陵の自然の要害を利用し
た山城。太石氏の築城と伝わる。太
石氏の勢力拡大に伴って滝山城が築
かれるまで、居城として使われてい
た。

⑯圓通寺



903（延喜3）年ころ創建の天台
宗の古寺。戦国時代に太石氏、北条
氏に守られて発展。1945（昭和
20）年7月に戦災により堂宇が焼失
した。その際に焼けた狛犬や地下壕
などの戦跡がある。境内のしだれ桜
が有名。

氏照は1587（天正15）年ごろに八王子城に移り、滝
山城は廃城となりましたが、現在も空堀や土塁などの遺構
がとてよく残されています。1951（昭和26）年には
国の史跡に指定され、2017（平成29）年には「続日本
100名城」に選ばれました。現在はハイキングコースも
整備され、四季折々の自然を楽しみながら多くの人が散策
しています。また、AR（拡張現実）を使って、スマホの
画面にかつての山城の姿を映し出す観光アプリもあり、最
新の技術で戦国の名城、滝山城を体
感することができます。



▶中の丸址と本丸址をつなぐ木橋



▶本丸址の碑



▲中の丸址



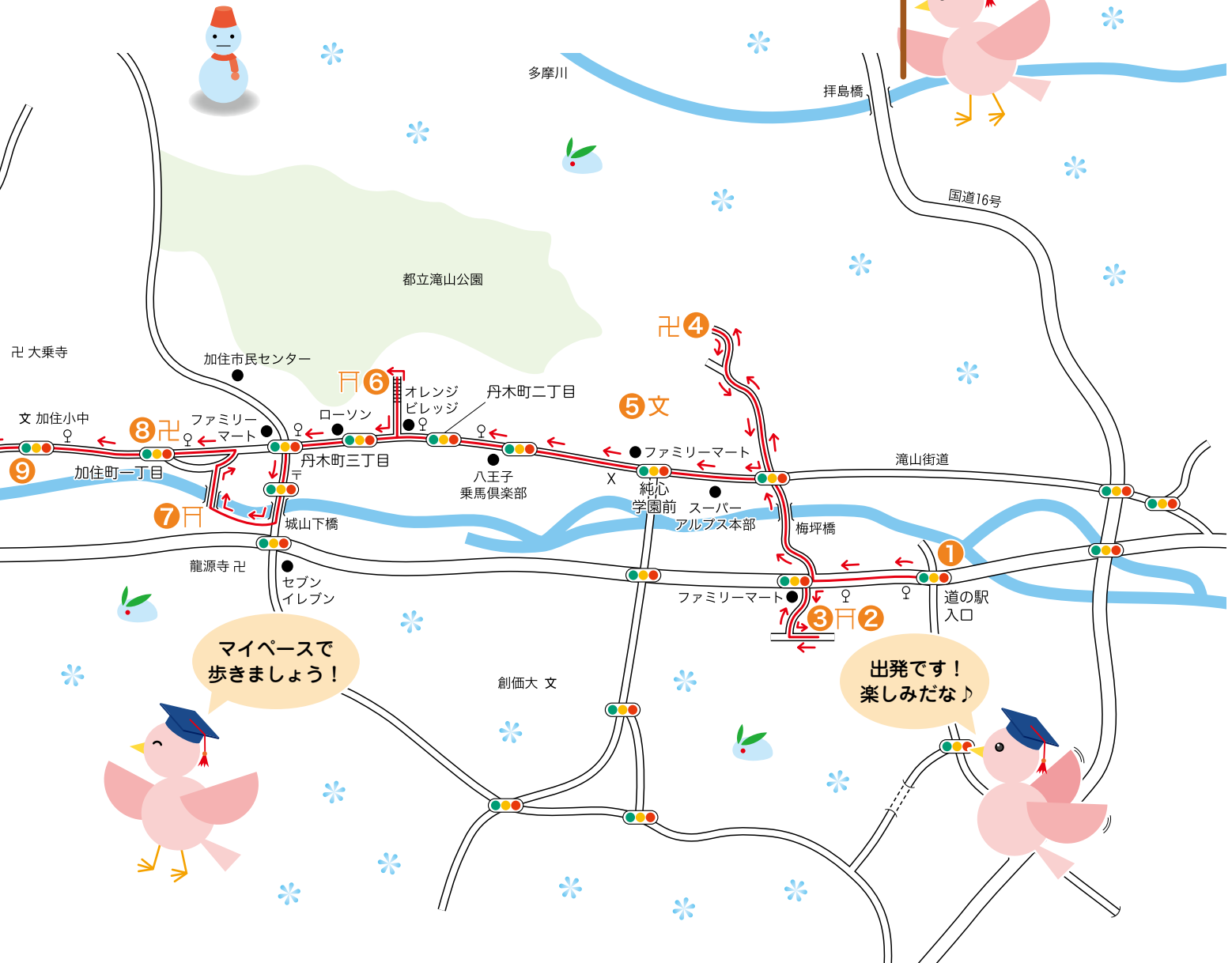
▶旧滝山荘

深〜く

加住地域を知る! その2

滝山街道散策コース

はちとぴ
観光★
—特撰—



②天神神社



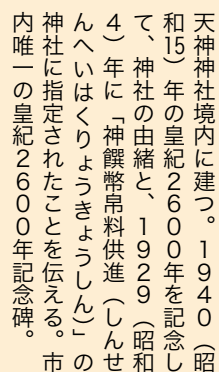
創建年代不詳。現在の社殿は1972(昭和47)年に建てられた。梅坪の天神様として崇められ、かつては4月の例祭に「ささら」獅子舞が奉納されていたが、1969(昭和44)年を最後に舞は行われていない。社殿に松原庵星布らの扁額がある。

2007(平成19)年オープンの東京都唯一の道の駅。八王子で栽培された新鮮野菜や果物、畜産物などを直売するほか、地元食材を活かした総菜、八王子産の牛乳を使ったソフトクリームなども販売している。(はちとぴ1号参照)

①道の駅八王子滝山



- 1 道の駅八王子滝山
- 2 天神神社
- 3 皇紀2600年碑
- 4 少林寺
- 5 東京純心大学
- 6 御嶽神社
- 7 勝手神社
- 8 寶印寺
- 9 加住事務所
- 10 最教寺
- 11 桂福寺
- 12 戸吹町慰霊碑
- 13 戸吹町会館
- 14 戸吹クリーンセンター
- 15 戸吹湯ったり館
- 16 戸吹スポーツ公園



⑧寶印寺



1591（天正19）年開山の天台宗の寺院で、境内の観音堂も同年に創立されている。堂内の千手観音は室町時代の作で、火防にご利益がある「火防の観音」として知られる。圓通寺の末寺であり、徳川幕府から観音領として朱印地を拝領していた。

⑨加住事務所



1983（昭和58）年9月に現在の建物に建て替えられた。加住小学童保育所を併設している。正面を走る滝山街道は国道411号線の一部で、青梅市友田町から左入町までの道の通称。向かいには小中一貫の加住小中学校がある。

⑩最教寺



寛永年間（1624〜44）に上野で創建後、徳川秀忠の庇護のもと押上に2000坪の地が与えられ、七堂伽藍が建立された。江戸安政の大地震と関東大震災で全山焼失して高円寺に移転。さらに1965（昭和40）年に八王子へ移転した。

⑤東京純心大学



純心聖母会を母体に、1963（昭和38）年に東京純心女子学園が創立。その翌年に東京純心女子高等学校、1967（昭和42）年に東京純心女子短期大学（2015年に東京純心大学に改称）が開学。カトリックの理念に基づいた教育を行う。

⑥御嶽神社



祭神は日本武尊。1544（天文13）年創立。古くは蔵王堂と呼ばれ、修験道の道場として近郷の修験者が集まり、護摩修行を行ったという。都の指定有形文化財で、いずれも一木造りの蔵王権現立像、十一面観音立像、菩薩形立像がある。

⑦勝手神社



神鏡に仏像などを取り付けた懸仏（かけぼとけ）をご神体としている（市指定有形文化財、現在は寶印寺に奉納）。中央に薬師如来坐像があり、円形の縁に沿って銘が刻まれている。境内には山王社があり、蚕神様といわれている。

日清食品ホールディングス “the WAVE”

ひと休み
コラム

加住地域の北西端、あきる野市と接する戸吹町に、日清食品グループの商品開発と安全性研究の機能を統合した研究施設があります。

2014（平成26）年3月に、滋賀県草津市と神奈川県横浜市のあつた研究所を集約して開設したこの施設は、食の先端技術を開拓する「グローバルイノベーション研究センター」と、食の安全・安心を追求する「グローバル食品安全研究所」という2つの施設から構成されています。



▲インスタントラーメンの「麺と切刃」をイメージした外観

敷地面積は約8万7千㎡、延べ床面積約1万9千㎡。特徴的な波を打つような壁面は、日清食品といえば思い浮かぶインスタントラーメンの麺に見立てたもの。そこに麺を切る製麺機の「切刃」の形をモチーフにした円筒状の2本の塔が建ち、「切刃」から麺が生み出されているような斬新なデザインの外観をしています。また、加住地域の豊かな自然に溶け込む施設として、環境に配慮した設計もなされました。食の先端技術を切り拓き、イノベーションの新しい「波動」を起こして世界に広げ



▲食品安全研究所での検査の様子

⑪桂福寺



境内の鐘楼山門は、1823（文政6）年に建立された朱塗りの2階建てで、2階部分が鐘撞堂となっている。市指定有形文化財。境内には、天然理心流開祖の近藤内蔵之助と二代目近藤三助の墓のほか、観音堂や豊川稻荷堂がある。

⑫戸吹町慰霊碑



桂福寺山門の手前左側の敷地に、日露戦争関係2基、日中戦争・太平洋戦争関係2基、計4基の忠魂碑が並んでいる。日露戦争関係の碑は地区出身戦死者の忠魂碑と復員者を刻んだ戦役記念の碑が並んでおり、この組み合わせは市内唯一。

⑬戸吹町会館



1876（明治9）年の建築で、木造2階建て。明治期に「明化学校」として建てられた場所は、現在地より宮下町寄りだった。明治後半にかなりの修繕、増改築が行われ、1917（大正6）年に戸吹分教場となった。

⑭戸吹クリーンセンター



可燃ごみなどを処理する戸吹清掃工場、戸吹不燃物処理センター、プラスチック資源化センター、戸吹最終処分場を管理している。年に1回戸吹クリーンフェスタを開催し、年末年始を除いた平日には施設見学も受け入れている。

⑮戸吹湯ったり館



隣接する戸吹清掃工場で燃やすゴミの余熱を利用した入浴施設。週替わりの2種類の風呂とサウナ、健康メニューの揃った食堂、カラオケ設置の和室などが利用できる。開館時間10時〜22時、第3木曜休み、入館料700円（高校生以上）。

⑯戸吹スポーツ公園



2011（平成23）年に戸吹最終処分場跡地に整備された約9・8haの公園。国内最大級のオールコンクリートのスケートパークのほか、サッカー兼ラグビー場、テニスコートなどの運動施設がある。原っぱ広場や散策路も整備されている。

▶上空写真



たいという思いから、*“the WAVE”*、という総称も付けられています。

開発対象としているのは麺だけではなく、菓子や飲料など幅広い「食品」です。さまざまな部門の技術を融合し、各分野での新規技術の創出を図っています。施設内には、生産工場と同じスペックの全長100m×幅37mにも及ぶ広大なテストプラントも備えられていて、商品開発だけでなく、工場での大量生産を実現するラインの開発まで一貫して行っています。

また、「グローバル食品安全研究所」は、食品の品質管理に医薬品の安全基準を導入し、高度な分析技術と世界屈指の食品安全管理体制を確立しています。こうした独自の品質管理によって、日清食品グループ全体の原材料や製品の品質を保証しているのです。

日本を代表する食品会社、日清食品グループの技術・開発・研究・安全・安心の拠点として、加住にある研究所からこれからも新たな商品が次々と生み出され、私たちの食卓に上っていくことになるでしょう。



▲残留農薬自動前処理装置での検査